

大学院看護学研究科 博士前期課程	授業 科目	家族危機看護論 Theory of Family Crisis Nursing			担当 教員	鈴木 志津枝 (専任)
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	専門科目 実践看護学	授業形態	講義・ゼミ
選択必修	選 択	時間数	30時間		使用教室	南館 202 演習室
授業の目的及びねらい						
急性期やクリティカル状況にある家族員、あるいは慢性病や予後不良の病気をもつ家族員を抱えている家族は、ストレス状況におかれている。ストレスに適切に対処できなかった家族は危機的状況に直面する。病者を抱える家族を理解するための概念や理論を学び、危機的状況にある家族を包括的にアセスメントし、既存の文献や実践知に基づき支援する方法を探求する。						
授業のキーワード						
家族、危機、家族危機、家族理論、家族機能、家族対処、家族適応、家族アセスメント、家族援助						
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画					
第1回	家族看護学の発展過程と家族看護における看護者の役割					
第2回	家族を理解するための理論①：家族エンパワーメントモデル					
第3回	家族を理解するための理論②：家族システム理論、構造－機能主義の考え方					
第4回	家族を理解するための理論③：家族役割に関する考え方、家族発達理論					
第5回	家族を理解するための理論④：家族ストレス対処理論					
第6回	家族への看護援助論①：家族カウンセリング、家族コミュニケーション					
第7回	家族への看護援助論②：家族の意思決定への支援、家族対処行動への支援					
第8回	家族への看護援助論③：家族役割の移行や役割の調整への支援					
第9回	家族への看護援助論④：家族関係の調整、社会資源の活用					
第10回	家族への看護援助論⑤：家族危機への看護介入、家族のストレスマネジメント					
第11回	家族の危機的状態と看護①：慢性病患者と共に生きる家族のアセスメントと看護援助					
第12回	家族の危機的状況と看護②：精神疾患患者と共に生きる家族のアセスメントと看護援助					
第13回	家族の危機的状況と看護③：急性期患者と共に生きる家族のアセスメントと看護援助					
第14回	家族の危機的状況と看護④：終末期がん患者と共に生きる家族のアセスメントと看護援助					
第15回	家族看護に関する倫理的課題のディスカッション 課題レポートの提出					
テキスト	テキストはなし、但し教員が作成した資料					
参考文献	1. 鈴木和子、渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践 第3版、日本看護協会出版会、2006 2. 野嶋佐由美監修、中野綾美編集：家族エンパワーメントをもたらす看護実践、へるす出版、2005 上記以外の文献に関しては、文献リストを配布します。					
成績評価の方法	・クラスでのプレゼンテーション (20%) 及びレポート (75%) ・クラスの参加状態 (出席、ディスカッションへの貢献) (5%)					
教員から学生へのメッセージ	各自が家族を理解するための理論、家族への看護援助論、家族の危機的状況と看護に関して文献に基づきまとめ、プレゼンテーションとディスカッションを中心としたセミナーを行います。 *各専門看護分野 (急性期看護学、慢性病看護学、老年看護学、がん看護学) の院生は、専門分野に関連した家族の事例検討 (3事例以上) を行うこと。					

